

幼児集団に於ける遊びに関する研究

研究第5部 植松治子・住吉玲子

I 目 的

幼児が集団の場所で生活する時に重要な事は「幼児の生活は殆んど遊びである。」といわれている、その「遊び」というものであろう。そして幼児がどのような遊びをするか、という事を識る事は、幼稚園、保育所生活のポイントをつかむ事であるにもかかわらず、現在、幼稚園、保育所に於ける遊びについての考え方は多様で、指導の方法もいろいろである。園生活の殆んどが活動が、遊びであるというならば、いさ少し遊びについての研究と、そこから得られるもの、子どものパーソナリティの形成に、集団生活はどのような影響を与えているかという事を究明しなければならない。

近年、新しい教育観が子どもの興味や自発性の原理にその基調をおいて、遊びは即ち、学習であり、学習の動機づけとして考えられるようになった。しかし実際には、子どもの自由遊びについては、放任されている状態

が多いのではなかろうか。幼児の遊びが、いさ少し教育に於ける中核的な問題として現場に於て重視されなければならぬ。そして、幼児の自発的な遊びを見直すことなく、適当な環境を与え、適当な指導を加えることにより、より教育的な効果を期待することを望むものである。このたびの研究に於ては実際の概況を総括的に知る必要があるため、観察記録の方法を施行した。すなわち、教師あるいは、研究担当者が、子どもたちが登園から退園までの間の、自由遊びに於ける場面をとらえ、或時期や時間を定めて、各担当者が、幼児がしぜんにあそんでいる状態を細かに観察して、これを記録用紙に記入した。次に記入の様式を述べる。記入の様式は、遊びに参加している幼児の年齢、性別、場所、人数、時刻、大体の観察時間等の項目にそれぞれ記入し、別にその遊びの様子を分類、整理した。

II 方 法

1. 対象 幼 児

幼稚園						
3才児	男	19名	女	21名	計	40名
4才児	男	49名	女	31名	計	80名
5才児	男	29名	女	21名	計	50名
					小計	170名
保育所						
	男	25名	女	15名	計	40名
合計						210名

2. 観 察 記 録

平常保育に於ける自由遊びの時間中、登園後1時間半

を経過した後、1時間を毎週1回観察し、記録してまとめた。

3. 記 録 の 様 式

記録の様式は次にかかげる。

記 録 の 様 式

遊びの記録				月	日	天候	組
種類	時間	人数	動機	内容			

III 結 果

1年間の遊びの記録を次にあげるそれぞれの表によつてみてみよう。

1. 遊びの種類と回数

第1表のように遊びの種類を1年間通してみると、3才

第1表 遊びの種類と回数(年間を通して)

3才児		4才児		5才児	
種類	回数	種類	回数	種類	回数
◎ 木の輪で遊ぶ	21	・ 砂場あそび	29	◎ ままごと	15
◎ 絵をかき	17	・ ブランコ	20	◎ 知恵つなぎ	13
◎ ままごと	15	◎ 知恵つなぎ	17	◎ ピアノをひく	12
・ 砂場あそび	8	◎ ままごと	13	・ タイヤまわし	9
・ ブランコ	7	・ スカルプチャー	8	・ ブランコ	7
◎ 自動車(玩具)で遊ぶ	6	・ 鉄 棒	7	◎ お姫さまごっこ	6
・ すべり台	5	・ 鉄人ごっこ	7	・ 戦争ごっこ	5
◎ 切紙、はり紙、折紙	4	・ スーパーマンごっこ	6	◎ 木工あそび	4
・ ジャングル	4	・ 登はん棒	5	・ 鬼あそび	4
・ スカルプチャー	4	・ タイヤまわし	5	・ すべり台	4
・ 山のぼり	4	・ ジャングルジム	5	◎ 折紙	3
・ とんねるくぐり	4	・ 忍者あそび	5	◎ 絵をかき	3
◎ 粘土あそび	3	・ たいこ橋	5	・ 靴かき	3
◎ ふざけ遊び	3	◎ 積木あそび	5	◎ 切紙、貼紙	3
◎ まかりつき	3	◎ 木馬で遊ぶ	5	◎ まりつき	3
◎ 木馬で遊ぶ	3	◎ 絵をかき	5	◎ 木	3
◎ 鉄人あそび	2	・ かくれんぼ	4	・ 鉄人ごっこ	2
◎ 金魚を見る	2	◎ 粘土	3	・ 朝顔の葉をみる	2
◎ とび歩き	1	・ 柿の突ひろい	3	・ はいちもんめ	2
◎ 動物あそび	1	・ すべり台	3	・ 砂 遊 び	2
◎ かを見	1	◎ 絵本をみる	3	◎ 自動車あそび	2
◎ 相おまじやくし	1	・ かごめかごめ	3	◎ 手裏剣あそび	2
◎ 球あそび	1	・ はいちもんめ	3	・ かたなあそび	2
◎ 七夕飾りを見る	1	◎ 王様取り	3	・ かくれんぼ	2
・ 片足とび遊び	1	・ 水 運 び	2	◎ お家あそび	2
◎ 人形を抱く	1	・ おぼけあそび	2	◎ 遊戯をする	2
◎ 人形あそび	1	・ 紙飛行機をとばす	2	・ ボールとり遊	2
◎ 壁の絵を見る	1	◎ 魚 つ り	2	◎ レコードに合わ	2
◎ 絵紙で人形をつく	1	・ 汽 車 ご っ こ	2	びたいこ橋	2
◎ 旗をつくる	1	・ 聖火リレーあそ	2	◎ 開戦ドン	2
◎ 亀鉄を見	1	◎ 運動会ごっこ	2	◎ 開戦ドン	2
・ タイコ橋	1	・ 追いかけあそび	2	◎ かめと砂場で	1
◎ 手をつなぐ	1	◎ ピアノをひく	2	あそび	1
◎ 数字板で遊ぶ	1	◎ ロンドン橋	1	◎ くさむしり	1
・ 葉を拾う	1	・ 桑の突拾い	1		
・ 石を拾う	1	◎ 乗り物遊び	1		
・ タイヤころがし	1	(バス、電車)	1		
・ かくれんぼ	1	◎ 電気屋さんあそ	1		
◎ 鬼あそび	1	◎ 花屋さんあそび	1		
・ テータあそび	1	◎ 飛行機になつて	1		
・ 跳びつき	1	◎ 遊 戯 を す る	1		
◎ 組み木で遊ぶ	1				
◎ ちえつなぎ	1				

	室内あそび	屋外あそび	計
・ 印は屋外あそび			
3才児	28	22	50
4才児	28	45	73
5才児	32	35	67
計	88	102	190

第2表 遊びの種類と回数(年間を通して)

順位	3才児		4才児		5才児	
	遊びの名称	回数%	遊びの名称	回数%	遊びの名称	回数%
1	積木	15.0%	砂場あそび	12.0%	ままごと	9.1%
2	籐の輪で遊ぶ	12.0%	ブランコ	8.2%	知恵つなぎ	8.0%
3	絵をかく	11.0%	知恵つなぎ	7.8%	ピアノを弾く	7.2%
4	ままごと	9.0%	ままごと	5.3%	タイヤまわし	5.4%
5	砂場あそび	5.8%	スカルプチャー	3.3%	ブランコ	4.2%
6	ブランコ	5.1%	鉄棒	2.8%	お姫さまごっこ	3.6%
7	自動車(玩具)遊び	4.4%	鉄人ごっこ	2.8%	戦争ごっこ	3.0%
8	知恵つなぎ	4.4%	スーパーマンごっこ	2.4%	木工あそび	2.4%
9	すべり台	3.6%	登はん棒	2.4%	鬼ごっこ	2.4%
10	ジャングル	2.9%	タイヤまわし	2.4%	すべり台	2.4%
	その他 (山のぼり等40種)	26.8%	その他 (ロンドン橋等63種)	50.6%	その他 (折紙等57種)	52.3%

児に於ては50種、4才児73種、5才児67種である。その中で、回数の多いあそびの順を10位まであげると、第2表の通りである。すなわち、3才児では「積木」が一番多く、「籐の輪で遊ぶ」「絵をかく」「ままごと」「砂場遊び」の順になる。

4才児では「砂場遊び」が一番多く遊ばれ、次に「ぶらんこ」「ちえつなぎ」「ままごと」「スカルプチャーで遊ぶ」の順になる。

5才児では「ままごと」「ちえつなぎ」「楽器遊び」「タイヤで遊ぶ」「ぶらんこ」の順である。

次に第1表で見ると、4才児では、3才児より23種多いが、これは、4才児になると、園に備えてある遊具を広く使いこなせるようになるし、小人数ではあるが、対人関係が出来るようになり、遊びが多く見られるようになって来たためと思われる。

また、これに反して5才児の遊びの種類は、4才児より少なくなっているが、これは5才になると、一つの遊びに於ける参加人数が多くなり、遊びにまとまりがみられるようになり、また遊びの持続時間も長くなる。そのために遊びの種類は少なくなる。

2. 幼児の遊びの経続時間

幼児の遊びの経続時間を、4つに分けて、1年間通してみると、第3表の通りである。この第3表でみるよう

に3才児、4才児、5才児ともに、1分~10分が一番多い。年令の高い5才児が比較的持続時間の短い遊びが多くみられるのは、以下の理由からではないかと思われる。すなわち、5才児になると、グループでの遊びひとつのあそびをするとき、遊びにまとまりを作るため仲間を呼んだり、遊びへのきつかけや、友達を集めたり等の行動が、ここに含まれているからである。故にあそびを動機づけから、仲間集め、役割、分担やその他の相談をしている時間を入れると遊び時間は、もつと長くなるわけである。

例えば、「ぶらんこ遊び」をしながら友達と「ごっこ遊び」の話し合いをしたり、積木を積みながら、まわりを集つて来た友達と誘い合わせて、「お家ごっこ」に発展させたり等、友達と接触したり、遊具をそろえたりのような遊び以前の準備的な行動を、別の一つの遊びとして、この中に(1分~10分)入れたためである。

第3表 (イ) 幼児の遊びの経続時間

年令 \ 時間	1分~10分	11分~20分	21分~30分	30分以上
3才児	56.0%	27.0%	10.0%	7.0%
4才児	47.0	32.0	9.9	11.1%
5才児	42.4	19.4	13.8	24.4%

30分以上遊ばれているのは、第3表(イ)の通り5才児が

第3表 (四) 年間を通しての時間別の遊びの内容 (月別)

	月	10 分 以 内	30 分 以 上
3 才 児	4	砂あそび、ブランコ	絵をかく
	5	ジャングル	絵をかく、アートブロック (色積木)
	6	ふざけっこ、まりつき、野球遊び、遊具他	絵をかく、ねんど
	7	七夕飾りをみる	絵をかく
	8		
	9	絵をみる	絵をかく
	10	追いかけてっこ	積 木
	11	竹 の 輪	はり絵、絵をかく
	12		すべり台
	1	木 馬	自動車遊び (藤の輪)
	2	ジャングル、タイコ橋、すべり台	ままごと
	3	木 馬	自動車遊び (藤の輪)
4 才 児	4	ブランコ、ピアノ	パズル
	5	ブランコ、すべり台	砂あそび
	6	鉄棒、柿の実拾い	ブランコ、砂場
	7	とはん棒	砂あそび
	8		
	9	金魚にエサをやる	砂あそび
	10	まりつき、聖火リレー遊び	戦争遊び
	11	ブランコ	積木、ちえつなぎ
	12	聖火リレー遊び	砂遊び、すべり台
	1	たいこばし、おじいさんごっこ、絵本、鬼遊び	砂遊び、ままごと
	2	山にのぼる、スカルプチャーにのぼつておる	戦争あそび
	3	ジャングル	ちえつなぎ、ブランコ
5 才 児	4	追いかけてっこ	ままごと、砂あそび
	5	まりつき、追いかけてっこ	砂あそび
	6	鉄棒、外の遊具、草むしり、ピアノ	ままごと
	7	ピアノ、手裏剣あそび、自動車あそび	お姫様遊び
	8		
	9	ちえつなぎ、ピアノ、まりつき	ままごと
	10	ふざけっこ、戦争遊び	ままごと
	11	ボール取り、まりつき、本を見る	おうち遊び
	12	ブランコ、大工遊び	タイヤ、ままごと
	1	ピアノ、ままごと、タイヤころがし	うしろむき
	2	ブランコ、すべり台	勉強遊び、ままごと、タイヤ遊び、木工遊び
	3	鉄 棒	タイヤでおふね遊び

一番多く24.4%に対し、4才児は11.1%、3才児に於いては7.0%である。

遊びの内容を遊びの継続時間に関連させて説明を加え、表3(ロ)でみてみよう。

30分以上の遊びの内容を年齢別にみると、3才児では「絵をかく」のような独り遊びが多く、4才児では、「砂あそび」「すべり台」「ぶらんこ」等のように遊具を中心にした並行遊びが多く、5才児では「ままごと」

第4表 遊びの継続時間の平均値及び標準偏差
(標準検査法による)

	平均値	標準偏差
3才児	12.72分	7.220
4才児	15.06分	12.638
5才児	19.34分	15.458

「おひめさまごっこ」のように、友達と仲間で行なう想像遊びや、ごっこ遊びが多くみられる。これから、平均値及びその偏差をみると、第5表の通りになる。

この表の示す数からも、幼児が年少より年長になるに従って遊びの継続時間が多くなることが明らかにされる。

第5表 (イ) 社会性の発達からみた遊びの分類

種類 年令	傍観	独り遊び	並行遊び	集団遊び
3才児	11回 6.5%	49回 28.9%	75回 44.3%	34回 20.1%
4才児	1回 0.4%	64回 23.9%	53回 19.8%	150回 55.9%
5才児	1回 0.6%	42回 25.5%	14回 8.5%	108回 65.8%

これを10分以内と、10分以上の2グループに分けて、カイ自乗検定をしてみると、4才と5才の差はあまりみ

られず、3才と4才は ($\chi^2 = 3.0804, 0.1 < P < 0.05$) 10%の率で、3才と5才は ($\chi^2 = 6.5133, 0.02 < P < 0.01$)、2%の率でその差が明らかにみられる。

3. 幼児の遊びの内容

幼児の遊びを社会性の発達からみてみよう。第5表は社会性の発達からみた遊びの種類及び発達で、我々の記録した遊びの種類をパターン及びニューホールによる分類法によつてみたものである。第5表(ロ)にあげたブラッツの研究の分類と比較してみても明らかなように、幼児の遊びの内容、及び集団形成では、年齢が高くなるに従い、集団遊びが増加している。それに反し、並行遊びは漸次減少していく過程を示している。しかしここで5才

第5表 (ロ) 社会性の発達からみた遊びの分類
(ブラッツ)

種類 年令	独り遊び	傍観	並行的遊び	集団遊び
2才~3才児	31.6%	23.4%	9.8%	27.1%
3才~4才児	18.8%	17.0%	6.3%	51.2%
4才~5才児	9.8%	8.9%	4.1%	71.9%

児の「独り遊び」が、25.5%もみられるのは、3才児の「独り遊び」の状態とは内容的に異つていて、5才児の独り遊びは「ちえつなぎ」とか「自由製作」「本をみる」等のように集団の中にありながら、時には、集団から離れ、自分自身の経験や活動を自由に展開している状態で、3才児のその様に集団生活を嫌がったり、さけている状態ではなく、この様に独りで知的な時間を持つということがみられるわけである。

以上、この遊びの研究は、幼児の集団の中に於けるすべての自由活動を遊びとみなして、記録したものであることを附記しておく。

IV 考 察

○集団の中に於ける遊びの多様性

1) 幼児が行なう遊びの中には、その年代、時の流行によつて盛んになつたり衰えたりする現象がみられる。例えば表にもあるように「相撲」「忍者あそび」「聖火リレーあそび」等である。根源は主にテレビやラジオの影響によるものと察知される。

2) 年齢別の遊びの特長については第6表に示すごとくである。

3) 遊び仲間の人数と年齢

幼児の遊び仲間の数、集団の大きさについて各年齢の相異を第7表によつてみよう。

これによれば、一般に年齢が増すにつれて遊び仲間も増加する傾向がうかがえる。すなわち、心身の発達にもなつてクラスの一員として遊びの活動を行ない得る事がわかる。各年齢に於ける遊びの人数のモードと平均人数とを第7表にみる事ができる。

次に遊びの場所が室内か屋外か何れかの場所で遊ぶかは、「遊びの種類と回数(第1表)」の項目に、2種類の

第6表 (イ) 年令別遊びの特長

3 才	4 才	5 才
<ul style="list-style-type: none"> ・金魚、かに、亀、おたまじやくしを見る ・七夕飾、壁の絵を見る ・旗をつくる ・人形をだく ・人形あそび ・紙人形をつくる ・数字板で遊ぶ ・ふざけてあそぶ ・タイヤころがし ・山のぼり ・とびっこ ・トンネルくぐり ・片足とび ・動物あそび ・野球あそび 	<ul style="list-style-type: none"> ・金魚に餌を与える ・暦づくり ・紙芝居遊び ・動物づくり ・輪つなぎ ・ビクチャーパズル ・ピアノを弾く ・ラッパを吹く ・魚つり ・水運び ・木の実を拾う ・お店屋さん遊び ・おじいさん おばあさん ・おみこしかつぎ ・円盤投 	<ul style="list-style-type: none"> ・お花摘み ・草むしり ・朝顔の葉を見る ・冠づくり ・薬づくり ・貼り絵 ・箱遊び ・時計づくり ・厚紙製作 ・カルタ遊び ・勉強遊び ・だるまさん ・こま遊び ・オリンピックの話をする ・レコードに合わせ自由表現

第6表 (ロ)

3才4才5才に共通な遊び	3才4才に共通な遊び	4才5才に共通な遊び
<ul style="list-style-type: none"> ・粘土遊び ・積木遊び ・木馬で遊ぶ ・タイコ橋で遊ぶ ・かくれんぼ ・鬼遊び 	<ul style="list-style-type: none"> ・相撲 ・かけっこ ・絵本を見る ・石拾い ・葉を拾う 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵を描く ・靴かくし ・病院遊び ・乗物遊び ・お家遊び ・飛行機づくり ・動物のお面づくり ・かごめ かごめ ・花いちもんめ ・竹の子一本 ・開戦ドン ・遊戯遊び ・おぼけ遊び ・警官遊び ・運動会遊び ・聖火リレーあそび ・まり投 ・ジャングルジム

第7表 集団遊びにおける仲間の人数と年齢

年齢	人数					平均人数
	2~3人	4~5人	6~7人	8~9人	10人以上	
3才児	38%	43%	10%	4.5%	4.5%	4.5人
4才児	25%	35%	22%	8%	10%	5.5人
5才児	10%	23%	34%	25%	8%	6.6人

記号(・、◎)により現わしたとおりである。

4) 季節の変化にともなつて遊びがいかに移動するかについての結果をみたが、ここでは、これが顕著にうかがい知る事は出来なかつた。但し、強いて云える事は夏(6~7月)の遊びの中に、砂場に水を多く使つたり、

七夕、朝顔の花に水をやつたり、金魚に興味を持つたり水を使つての遊びが目立つ。秋(9~11月頃)は、花の種を集めたり、木の実を拾つたり、木の葉を並べたりする遊びが出て来る。冬(12~2月)には、水遊び等は殆んど遊ばれなくなり、一体に室内遊びが多く、特に新たに出てくる遊びとしては、正月にちなんだ、「カルタ」「こま遊び」などが特に5才児において持ちこまれてくる。

○年令による遊びとその発達傾向

幼児の各種の遊びの大体の傾向、発展や深まりについて我々が観察した見地から考察してみよう。

3才児に最も盛んな砂場遊びでは、おだんごを作ったり、山を作ったりするが、まだ作ったものを処理したり、遊びを積極的に進めていく事は出来ない。例えば手に砂をすくつたり、指の間からさらさら落したりしてよろこぶ。絵を描く事も多いが、目的もなくなぐりがきの段階で終わっている。その他おどつたり、楽器をならしたり、ごっこ遊びのようなものが現われるが、これもまとまらないうちに消滅してしまう。この時代の著しい特徴としては、相手を持つて遊ぶ事が出来るようになるが、これも集りの中にいるということが多く、ごく短時間ではあるが、ようやく子どもの遊びの仲間に入ることが出来かかったといつてよからう。又、友だちを求め、遊ぶと相手という事は仲々できない彼等は、相手の身体にさわつたり、ふざけたりする事によつて、遊ぼうとする気持を表わそうとする。又、動物を追つて遊んだり、魚や虫を捕らえようとする。これらは、ようやく社会性の発達の一面の現われと考えられる。

4才児に於ては、園内の固定施設遊具や、素材を比較的にたくみに使用出来るようになる。砂場遊び等では、砂を器に入れたり、大きな山をつくつたり、おだんごでも、唯手でこねるだけでなく、木型のわんや、玩具の入れ物等に砂を盛つたり、型押しなどをたのしむ事が出来る。又、箱や物を見て自動車やその他の器具を想像したり、木の葉や草花を使つているいろいろのものを作つたり飾つたり、その他いろいろの模倣を演出する事が盛んになる。

この時代に最もよく遊ばれる遊びは「砂遊び」「ブランコ」「スカルプチャー」(のぼつたり、降りたり、く

ぐつたりする運動遊具)「ままごと」等。

4、5才を通じて「ままごと」や玩具を使つての仲間遊びに加えて知的な遊び「ちえつなぎ」、タイヤやぶらんこを使つての遊び方がしきりに行なわれる。この場合、5才児に於ては、積極的に目的を持ち、仲間を作つて遊ぶ事が出来る。例えば、ままごと遊び、お客様遊びなどの内容も拡がり、深まりを加え、しきりに行なわれるようになる。友達間に、あそびにまとまりができて、役割、分担を相談して密接な協同作業がみられる。単なる素材の運搬収集がたくみであつた「ままごと」や「砂あそび」がもつと表現的になり、集団的になつて、「お客様ごっこ」「売りやさんごっこ」が行なわれるようになる。多勢が集まつて学校ごっこや、戦争ごっこもみられるようになる。その他、積木や寄せ木細工でいろいろのものを構成する事が出来、興味をもつて遊ぶ事が出来るのもこの頃である。

5才を過ぎた頃から、遊びの種類の上で男女の区別が次第に明瞭になつてくると思われる。しかし、遊びによつては両者共通のものもある。集団的活動も人数も増し、その間に親近感益々深まり、親密な関係がみられるようになる。例えば同じ「ままごと」をするにしてもお互い間に、お父さん、お母さん、お姉さん、赤ちやん等の役割を定めて、お客あそびが行なわれ、「売りやさんごっこ」では、製造、店、売人、買手、その他役割を相談して定め、一般社会の商業の模倣遊びにも、社会の身近かな、しくみの一端を盛り得る知恵も育つてくるわけである。

V 結 語

この研究は先ず、園児の遊びの実態を明らかにし、その結果をまとめ更に考察を加え、これが今後の教育上、又、研究に何らかの示唆を与え得ればということで始めたものであるが、この結果、集団生活において、さまざまな遊びを繰り広げていることの一端をうかがい知ることができたようである。

そして幼児の生活を取りまく園生活の中で、更に、この研究を拡げ、かつ深め、幼児の精神発達の方向を確かめたいと思う。しかし、幼児の心身発達の方向は、園生活内だけで止まらず、家庭や近隣社会、その他の規定条件による影響を受けて発達していること、又、将来、幼

児が構成する社会と、その生活に必要な活動を合わせ考へて、園でのこれからの生活を考えると興味深いものがある。

そして園生活を活発に行なうための教育計画、指導計画をたてる時に、忘れがちになつている自由遊びの中に偶発的に行なわれる遊びを見逃すことなく、これをとらえ、その遊びにねらいや目的を持たせ、適切な指導を加えたならば、子どもの欲求をより満たしながら、その心身の発育を効果的に成長させることができるのではないだろうか。

Study on "Plays" observed in Young Children's Group

Haruko Uematsu

Reiko Sumiyoshi

1. Purpose

Young children's life almost consists of "plays", which are important for their group life. Most of the children's activities in the kindergarten being "plays", we found it necessary to inquire into them to see how they influence upon children's group life and personality. As little attention had been paid to children's "free-plays", we considered it essential to attach more importance to them as a kernel educational subject in the kindergarten.

2. Method

To grasp the general phases of the free plays of children, teachers and research staff members closely observed the children enjoying various spontaneous plays, fixing a certain period and time during the kindergarten hours. Children's activities were recorded on the specially prepared papers.

3. Result

Viewed from the standpoint of social development of young children, our records show that with advance of age, "group plays" increase while "parallel plays" gradually decrease. Plays in group are diverse, becoming very active or fading away in accordance with age, time, popularity and change of season. The present study tells us that if we are very careful in observing children's incidental plays and wise enough to give each child "play guidance" appropriate to his developmental stage, it will be helpful to satisfy his need and be more effective to help develop both his mind and body.